

Q：輪廻転生というのが本当にあるのか、ということと、もしあるのであれば、前世から引き連れてきた自分の課題みたいなものあって、それが今世において解決することによって、来世においてより良き人生がある、ということはあるのかないのか、ということをお願いしたいと思います。

A：そうですね、はい…。でも、その質問って今日してもいいですけど、1か月後にしても多分同じような質問ができますし、2か月前でも、再来年聞いてもいいんじゃないですか？もう少し、今、聞いておいたほうが良さそうなことは他にないですか？今、重要なこと…

Q：今私にとって重要なことにつながってるところがあるような気がして…私の今における課題…

A：自分の課題は何なんだろう、という気持ちがあるんですね？

Q：はい。課題が何なんだろうか、って知りたいこともありますし、前世から与えられているものとのつながりもあるのかな、ということが質問の意図なんです…

A：課題っていうのは別に過去世のことを探さなくても、いつも今ここ、目の前で分かるんですよ、ある意味。今自分が何かしら苦しみを感じるような、何かしら疼きを感じるような、何かしら困難を感じるようなこと、それが全て課題ですからね。つまり…物事が順風満帆に行っていて、何も問題を感じない、というところに課題を見出すことはできません。

人と比べてしまうこととか、自分がもっとできるはずだ、という思いで現状を受け入れられないとか、そういう気持ちが例えばあることによって、今苦しみが生じますよね。

それを、「苦しみだ」と感じて嫌がっている間は、

同じようなことでずーっとその問題が繰り返されます。それは、環境を変えても似たような、違う環境であるにも関わらず似たような感情が再来します。あるいは人間関係を取りかえても、違う人間のはずなのになぜか同じようなことが繰り返されます。

それが課題であるということの証拠には、そのことが気にならなくなってきた、どうでもいいというふうに、執着が離れてきたときに、それが課題として終わったときに、なぜかその手の問題は繰り返されなくなります。

ということが重要なのであって、「それは前世で一体何をしたからだろう」とかそういうことを考察するのは必ずしも有益であるとは言えません。なぜなら、分からないからです。

そもそもそれが前世であるとは限りません。今生において、たくさん好ましくない感情を作ってきているはずですし、それが蓄積すると、それも常に新たな課題を形成します。

何にしても、好ましくない業を踏めば踏むほど、そのような苦しみをもたらす原因をつくる、というパターンが心にしみついていって、そのパターンがしみついている以上、それからは脱却するという課題がクリアできるまで、その感情のせいで、手を変え品を変え、似たような問題がずーっと再来します。

例えば、人間関係であって、恋愛関係なんかで非常に顕著に見受けられるのは、ある種類の人間をすごく嫌だと思っている人が、「今度恋愛するときは絶対こういうタイプの人とは付き合いたくない」とか言っているにもかかわらず、主観的には違う種類の人を選んだつもりであるにもかかわらず、でも主観的にそうだけで、客観的に見ると同じようなパターンをずーっと繰り返して、というようなことも同じことですね。その場合、そのような人を選びたくなる、自分の心の欠落感みたいなもの、何かの自分の煩惱を刺激してくれるからそういうものに

好意が生じるという、心の癖をクリアできていないので、言わば練習問題が手を変え品を変え、ずーっと与えられ続けるようなものです。そのときに、自分の欠落感に気づきを向けていって、こういうのは…この頭が作りあげている幻であって、夢です。そういう夢を見させられていて、とても無意味でどうでもいいんだな、ということが分かって、で、それが手放せたときに、そういう問題は解決します。

ですから、解決していないときは、無意識的に心の磁力みたいなものが、そういう種類の人を、自分も選びますし、相手もその種類の人が自分に向こうから近づいてくるような感じになるので、そういう人間関係の星座みたいなものが、なんとなく磁場を形成しているときに、それ以外の人は入って来られないんですよ。それは言わば、ある種の植物が繁茂していると他の植物は生えられないんですよ、ちょっと関係ないかもしれませんが。例えば、芝生が大量に生えていると、芝生以外のものが生えてくるのを邪魔するオーラじゃないですけど、何かを発散しているんですよ、何かの物質を。で、それ以外の植物はその辺に生えにくくなるようなもので、特定の心の磁場みたいなものを形成していると、他のものは入ってくる余地がなくなる、といったような塩梅で……。

輪廻転生ということについて言えば、私は、それはそのようになっていくように感じていますけどね。感じている根拠と言え、坐禅をしているときに、いろいろ過去の記憶がまざまざとリプレイされることがありますけど、今世の記憶ではないような種類のもものがいろいろ、特に集中的に、ひたすら坐禅をしているようなときはリプレイされるのを体験してきているからです。ただ、それをもって、多分あるだろう、というか、ほぼあるだろう、となんとなく主観的には感じているんですが、他方で、よくよく考えてみれば、この心の中には先祖が体験してき

たようなデータもいっぱい含まれているはずですし、人間以外の、人間になる前の先祖のデータとかもいっぱい入っているはずですから、そういうのが再生されている可能性がゼロだって言い切れないんですよ、科学的にちょっと考えると。そういう知識とかを抜きに、実感レベルで言うと明らかにこれは、過去世のデータが出ているんだなっていう、そういう実感みたいなものはあるんですけど、でもそれは置いておいて、一現代人として科学的に考えてみようと思ったら単に祖先の古いデータが再生されているだけかなあ、という気分もぬぐえないですから、何にしるそういうことは、自分が死ぬときに分かるでしょうけど、そうじゃないのに、絶対こうだとか言い張るのは必ずしもできないなあ、というのが私の思いですけども、心持ちとしては「あるだろう」という前提で、生きています。

そして、「あるだろう」という前提で生きたほうが生活が律しやすいのは事実です、いろいろな意味で。

「今行方選択が後々まで非常に波及していく」ということを前提として生きていると、自然に慎重になるからです。で、結果として、それが仮に死んだあとが何もなくなるのであってすら、そのような心持ちで生きていることによって、今生の心の律し方が律しやすくなるので、総合的にみると今が生きやすいですし、今がハッピーになりやすい、という意味で、それを前提にしていたほうがよかろう、という気がしますけれどもね。でも、気がするだけで、だからと言って絶対そうだ、とは言えないと感じています。そういうわけで、より重要なのは、「過去世が何であったらうか」とか「この課題は過去世で何をしたら生まれているだらうか」とか考えることではないのです。なぜなら「1+1は？」って聞かれているみたいな気がして嫌な気分がするかもしれませんが答えてみてほしいんです

ね、そうやって、「過去世に何をしたらこうなっているんだろう？」って考察することは、今に気づきを向けることの補助になるでしょうか？

Q：ならないです。

A：そうなんですよ、そうなんです。すごく昔のこと、なおかつ、認識もできないくらい昔のこと、しかも正解が出せないようなことについて哲学的考察をするようなことになってしまって、そのようなときに完全に今を見失って、頭がふらふらするみたいになってしまふんですよ。ですから、重要なのは、ただ今、自分に何らかの苦しみが与えられていて、「これは自分の中でまだ未解決のミッションだ」ということです。

そのミッションは、別に前世があってもなくてもどっちにしても、ミッションがあるのは変わりありません。「なんとなく前世から」だったり、「むかしからの解決されてない遥か彼方からのミッションであろう」という想像はできますが、確定はできないので、確定できないことについて考察するのは大変無駄です。なので、その手の考えていうのは、それも苦しみを増やす、というか今が落ちつかなくなるとそわそわして、なんとなく足りないような気分になってくる、偽の問題の一つですから、そういうのには引っ掛からないようにして、「あ、今与えられているミッションはこれで未解決だから、このミッションに取り組もう」ということだけで十分です。で、それに取り組んで、解決しない場合は、結局のところどこに行っても、人間をとりかえても、場所をとりかえても、時代をとりかえても、国をとりかえても、ずーっと同じことが続きますので、ある意味それを通じて分かってきます。一回だけダメージを受けても分からないですけど、場所を変えたりどこかに行ったりしても、またこういう人が来るんだ、とかまたこういうことになるんだ、これはじゃあ、

相手が自分にしていくというよりは、こちら側の心が相手を登場させ、相手がある意味脇役としてうまく使って似たようなことを自分が反復して、そのミッションのためにいろんな脇役を使っているようなもので、その脇役を非難したりしているんですけど、それは脇役がかわいそうなんですよ。こちらの心のせいで、相手がそういう役割を演じさせられているだけの話なのです。それをクリアすることがただ大事だ、ということですね。

(テープ起こし：e)